

2008年度イリノイ大学モーテンソンセンター 海外派遣研修参加報告

勢 田 玲 生

2008 University of Illinois Mortenson Center Fall Associates Program Report

Tamaki Seta

抄 録

私立大学図書館協会からの海外派遣研修として、アメリカ、イリノイ大学における The Mortenson International Library Program (Fall Associate Program) に参加した。研修期間は2008年9月2日から10月31日までの8週間であった。本稿では、プログラムの概要、および本学に関係深い Applied Health Sciences library の図書館運営を中心に紹介する。

キーワード：海外派遣研修

イリノイ大学

The Mortenson International Library Program

Applied Health Sciences

図書館運営

1. はじめに

私立大学図書館協会国際協力委員会の海外派遣事業により、The Mortenson Center of International Library Program、University of Illinois の Fall Associate Program に参加した。研修期間は2008年9月2日から10月31日までの8週間であった。本研修への私立大学図書館協会国際協力委員会からの派遣は2003年から毎年続いており、2008年度参加の筆者は6人目である。

本稿では、プログラムの概要について説明し、個人的なインタビュー活動の結果得られた情報である、イリノイ大学図書館の一部、特に本学に関係する図書館運営（主に Applied Health Sciences library）、OPAC (Online Public Access Catalogue) の導入例、図書館独自の取り組み (Portal Site) を中心に紹介し、単なる旅行記に留まることなく、今後の健康科学大学附属図書館の発展に寄与する情報提供を試みたい。

なお、よりプログラムの内容全般に関する詳細な報告は、2009年度私立大学図書館協会総会・研究大会にて発表予定の2008年度海外派遣研修報告書（HP上でも同時公開予定）を参照されたい。

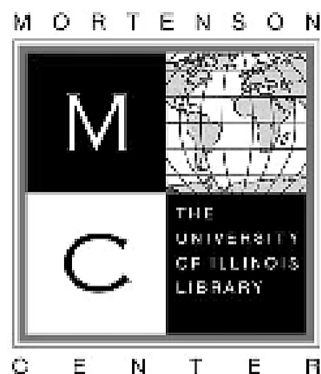
II. The Mortenson Center of International Library Program の概要

1. The Mortenson Center について

Mortenson Center はイリノイ大学内に設置された図書館員のためのトレーニングセンターである。1986年 C. Walter 氏と Gerda B. Mortenson 氏による200万ドル（約2億円）の寄付をもとに国際教育・理解および平和を目的として設置された。また、1991年両氏の2度目の200万ドルの寄付をもとに International Library Program が開始された。現在はイリノイ大学や連邦政府の補助金、各国の図書館団体の援助（私立大学図書館協会、国立大学図書館協会も含まれる）などによって運営されており、今までに89カ国700人以上の図書館員がプログラムに参加している。イリノイ大学のライブラリースクール（図書館情報学科）は現在、アメリカ・カナダにおいて人気・規模ともに1位の地位を誇っている。この充実したライブラリースクールのもと設置されている Mortenson Center of International Library Program は、その研修内容、規模、いずれをとっても世界的に最高の図書館員のための研修プログラムである。

2. 研修参加者について

2008年度の研修には、世界10か国から18名が参加した（参加国: Bahrain, Colombia, Ghana, Japan, Kenya, Nigeria, Palestine, South Korea, Uzbekistan, and Vietnam）。日本からの参加は鳥谷和世氏（国立大学図書館協会：神戸大学医学図書館員）と宮部頼子氏（立教大学：教員）お



写真① Mortenson Center ロゴ

よび著者の3名であった。参加者の内訳は大学図書館員12名、公共図書館員5名、教育職1名であり、図書館長、大学教授、IT技術者などさまざまであった。参加者の中には、所属する図書館以外の外部機関から、研修に参加するためのファンド(予算)を獲得している者もいた。また、Mortenson Center自身もカーネギー財団の寄付を獲得し、プログラム途中、10名のアフリカからの参加者(Ghana, Kenya, Tanzania, Nigeria)が加わった。したがって、両グループ合わせて、総勢28名の参加者であった。



写真② Champaign-Public Library にて

3. プログラムの概要

プログラムの内容は、大きく講義、訪問、発表の3つに分かれる。

① 講義

イリノイ大学図書館情報学大学院の教員及び、図書館員により、図書館組織・経営学、コミュニケーション、IT技術、図書館サービス、図書館・情報学に関連した最新の講義が、シリーズとして行われた。また担当者からのイリノイ大学図書館業務に関する、説明を受ける機会もあった。

② 訪問

イリノイ大学、公私立の図書館をはじめ、大学・高校・博物館、米国図書館協会本部、図書館関連団体を訪問した。

③発表

イリノイ州図書館協会年次総会において、研修参加者がそれぞれの国の図書館事情についてプレゼンテーションを行った。筆者も日本からの各大学図書館(神戸大学、健康科学大学、立教大学)の紹介、日本の学術図書館の統計、そしてNII(国立情報学研究所)の取り組みについてプレゼンテーションを行った。

上記でも述べたが、よりプログラムの内容全般に関する詳細な報告は、2009年度私立大学図書館協会総会・研究大会にて発表予定の2008年度海外派遣研修報告書(HP上でも同時公開予定)を参照されたい。

Ⅲ. イリノイ大学図書館 Applied Health Sciences Library について

イリノイ大学の中心に位置するMain Library内にあるApplied Health Sciences Libraryは、200,000冊の図書、19,000のマイクロフィルムと定期刊行物300を所蔵し、イリノイ大学の保存庫であるOak Street Library Facilityには100,000冊の蔵書が保管されてい



写真③ Applied Health Sciences Library 入り口にて

る。リハビリテーション、スポーツ科学、運動学、身体教育、健康、レクリエーション、観光、言語聴覚教育等を網羅している。インタビューの機会を得ることができた Applied Health Sciences Librarian の司書、Mary Beth Allen 氏は、環境学と英語教育学の背景を持ちイリノイ大学にて取得した図書館情報学科の修士号も持っていた。また Associate Professor (准教授) でもある。ス

タッフはMaryをはじめWendy Gregory氏 (Senior Library Specialist) とLillian Morales氏 (Library Specialist) の他に5人の学生アルバイトが図書館運営を行っている。近年の予算削減の結果、今年は図書館スタッフとして大学院修士課程の学生であるGA (Graduate Assistant) をつけることができないと話していた。

1. 予算について

Applied Health Sciences Library の予算は州立大学であるためイリノイ州からの税収を大枠とし、昨年度の図書予算は10万ドル (約1,000万円) であった。その他、必要な経費は寄付金の収集等によりまかなわれている。

2. 蔵書について

蔵書は学生からのリクエストはもちろんのこと、学期ごとの年2回開かれる図書館会議 (この会議への出席者である教員は The College of Applied Health Science (4分野である運動学、公衆衛生学、スポーツ・観光学、言語聴覚科学からの教員である) での要望も受け入れている。しかし、図書館全体のほとんどの蔵書は図書館員が選書を行っていた。日本における大学図書館の選書は、学生・教員によるリクエストが優先され、図書館員による選書はレファレンス分野 (辞書・百科事典・統計資料) などに限られている。司書が図書館の蔵書に対し大きな責任を持ち、大学図書館全体の蔵書構成を形作っているところがアメリカでは一般的であるとのことである。蔵書に対して深い知識を持ち、図書館サービスの基本は図書館が持っている資料の質であるという考え方は学ぶところが大きい。

3. 図書館員の教育について

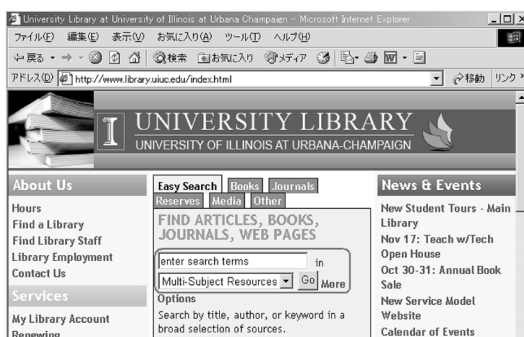
欧米において図書館員は、図書館情報学の修士号が必要要件とされている。これは、日本の司書資格制度とは異なり、欧米における司書の質が高く保たれている理由の一つと考えられている。実際の図書館業務においても、図書館に対し大きな権限と責任を持

ち、先に述べた蔵書構築や図書館の将来像を図書館員の手で作り上げていく側面が強い。筆者が医療系図書館に所属し、何よりも難しいと感じることは、医療分野は広範で、最新の情報を必要としている点である。インタビュー中「どのようにして、医療系図書館員としての技術・知識を向上させているか？」という問いに対し以下のような具体的な示唆を頂いた。

- ・レビュー誌 (review journal) に目を通すこと
- ・専門分野の教員と話す機会を持つこと
- ・別分野の Subject Librarian (主題図書館員) と話し合う機会を持つこと
- ・NMLA (National Medical Library Association) の大会、研修会に参加すること
自己の学習、教員との連携、また図書館員との連携が欠かせないことが伺えた。

4. OPAC (Online Public Access Catalogue) について

イリノイ大学は多くの図書館を持っている (Applied Health Science Library もその1つ)。そのそれぞれの図書館が持つ蔵書を、利用者が一度に検索できるような OPAC が作られている。また、利用者が My Library Account (登録を必要とし、ログインには ID と Last Name が必要) を持ち、貸出、予約、更新はもちろんデータベースの利用を行うことが出来る仕組みがとられていた。

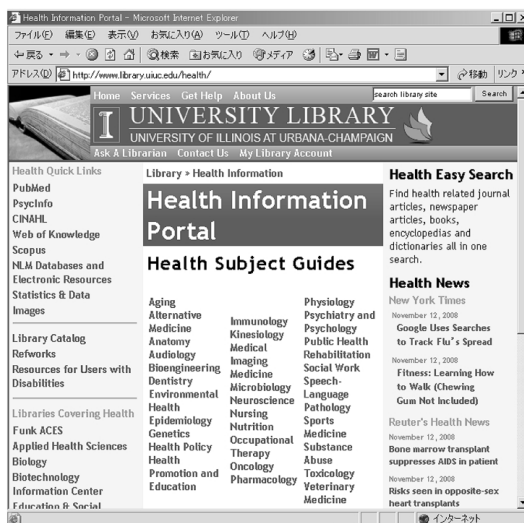


写真④ イリノイ大学図書館 OPAC

5. 図書館の取り組み

(Health Information Portal)

独自の取り組みとして、Applied Health Science Library が中心となり、健康に関する32分野の件名、データベースへのリンク、健康情報への簡易検索、最新ニュースを掲載した Portal Site が構築されていた。また、この Portal Site には単なる健康情報の集約だけではなく、スペイン語ページや健康分野における求人情報等、さまざまな情報が一点に集中するように作られている。



写真⑤ Portal Site

IV. 考察および結語

図書館におけるオンライン蔵書検索システム OPAC (Online Public Access Catalogue) は訪問した多くの図書館で、最低限、必要なサービスとして利用されていた。今後、図書館ホームページ、OPAC、Portal Site 等を導入予定の本学にとって、以下の3点が有効と考えられる。

- ① 大学間の横断検索ができること
- ② 利用者ごとのサービス提供 (My Library Account)
- ③ 情報の集中サイトの構築 (Portal Site)

いずれも、利用者の立場にたち、図書館の資源 (蔵書、データベース等) をいかに活用してもらうかを考えた結果である。Portal Site のメインページには「For comments on this page contact : Mary Beth Allen」と書かれていた。この Portal Site の全責任は彼女にあるということである。これらサービスは多くの図書館員、関係機関の連携のもと運営されているが、一人の司書の力と責任によって、これだけのことができるのかという威力を感じた。研修終了後、一番強く感じたことは、一人の図書館員の考え方・行動によって組織は変わり、サービスをより良くすることができるという事実であった。

謝 辞

本研修の参加に、多くの方々にご指導とご協力をいただいた。プログラムの主催者であるイリノイ大学 Mortenson Center、特にイリノイ大学アジア図書館の野口契子氏には何から何までご支援いただいた。深く感謝したい。

また、歴代のプログラム参加者の方々には、有益なご助言をいただいたことに感謝申し上げます。研修前の英語指導をしてくださった本学教員のリチャード・キャラカー先生、坂本宏史先生、そして英語を含め生活面等多くのご助言、ご協力を頂いた堀内一美先生に感謝申し上げます。

また2ヶ月間の研修に参加され、指導的役割をしてくださった宮部頼子先生 (立教大学教授)、共に研修に参加し日々の多くを助けてくださった鳥谷和世氏 (神戸大学医学図書館) にも深く感謝申し上げます。

最後に、海外研修の機会を与えてくださいました私立大学図書館協会国際協力委員会の皆様、長期の海外研修をご許可いただきました健康科学大学の皆様、研修に心よく送り出してくださいました図書館長香川邦生先生、そして2ヶ月間の不在に骨を折ってくださった司書の坂田みゆき氏、教務課の渡辺洋介氏に深く感謝申し上げます。

参考文献

- 1) Mortenson Center for International Library Programs
<<http://www.library.uiuc.edu/mortenson/index.html>>
- 2) American Library Associate (ALA) <<http://www.ala.org/>>
- 3) University Library University of Illinois at urbana-champaign<<http://www.library.uiuc.edu/>>
- 4) Applied Health Sciences Library <<http://www.library.uiuc.edu/alx/>>
- 5) 鷹尾道代氏（成城大学）「米国における大学図書館員の専門性について：イリノイ大学モーテンソン・センター国際図書館員プログラムに参加して」、『大学図書館問題研究』, No. 71, 2004, p. 17-32.
- 6) 梅澤貴典氏（中央大学）, 「米国の大学図書館運営：モーテンソン・センター国際図書館員プログラム参加報告」『大学図書館研究』, No. 74, 2005, p. 40-54. 「2004年度海外派遣研修報告書」
- 7) 峯環氏（明治学院大学）「米国の大学図書館における利用者サービスに学ぶ：イリノイ大学モーテンソン・センター国際図書館プログラムに参加して」, 『大学図書館研究』, No. 78, 2006, p 40-52. 「2005年度海外派遣研修報告書」
- 8) 高井響氏（立命館大学）「2006年度海外派遣研修報告書」
- 9) 伊藤秀弥氏（立教大学）「2007年度海外派遣研修報告書」
- 10) 庄ゆかり氏（広島大学国立大学図書館協会派遣者）「イリノイ大学モーテンソンセンター Fall 2006 Associate Program 参加報告」, 『大学図書館研究』, No. 80, 2007, p. 108-119.

Abstract

I participated in the Mortenson International Library Program (Fall Associate Program) as an international associate. This program was held at the University of Illinois, USA, from September 2 to October 31, 2008 (8 weeks). This paper briefly describes of that program, and introduces the Applied Health Sciences Library which is especially important for our university, HSU (Health Science University)

Key Words : Overseas program

University of Illinois

The Mortenson International Library Program

Applied Health Sciences library

Library administration and management